

日本の伝統と文化を継承! 和裁技能士

着物ができあがるまでの多彩な工程も
熟練した技能により美しく仕上げる!



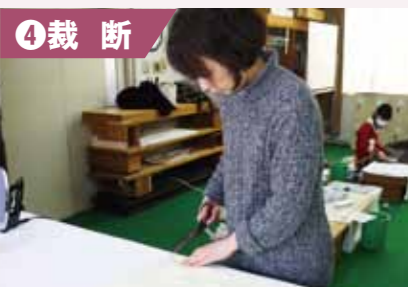
③見積り
指定寸法通りにお仕立てできるか、袖・身頃・衿・衤などの長さがあるか、柄の配置が良いかなどを見積る。



②地直し
アイロンを使って織目・布目を真っすぐにする。



①検反
反物に織キズ・汚れ・染ムラなど無いかなど調べる。



④裁断
指定寸法、柄の配置などの見積りを確認し、裁断する。



⑤ヘラ付け
各部分に印付けをする。



⑥縫製
印付けした通りに縫う。



⑨完成



⑧仕上げ
袖・脇・背・裾などアイロンなどを使って仕上げをする。



⑦検品
仕立て上がった着物が指定寸法通りになっているか、縫い針が残っていないか、シミや汚れがないか、入念に確認する。

森本 温美さん
●第49回技能五輪 全国大会 第1位
●第27回 技能グランプリ 敢闘賞
●一級和裁技能士

「入社当初、和裁の基本である運針もままならないまま8年が過ぎました。卒業後、在宅での作業になりましたが、縫える着物の種類も増え、技術も向上しましたが、一人前の和裁士になるにはまだまだ道のりは遠そうです。」

卒業生からのメッセージ

●技能五輪 全国大会・金賞2名 銀賞1名 銅賞1名 敢闘賞7名 ●技能グランプリ 1位3名 3位1名 敢闘賞1名

当社は、毎年開催される青年技能者(原則23歳以下)の技能レベル日本一を目指す技能五輪全国大会、技能検定特級1級単級技能士による2年に一度の熟練技能士が競い合う技能グランプリなど、各種の競技大会にも選手を育成して参加し、技能のレベルアップや努力目標の達成感など、生徒だけでなく学院や家族の応援も得て、ものづくりの頂点を目指しています。

〔技能競技大会成績〕

優れた技能を全国レベルで競い合う技能競技大会にも挑戦。

当社は、毎年開催される青年技能者(原則23歳以下)の技能レベル日本一を目指す技能五輪全国大会、技能検定特級1級単級技能士による2年に一度の熟練技能士が競い合う技能グランプリなど、各種の競技大会にも選手を育成して参加し、技能のレベルアップや努力目標の達成感など、生徒だけでなく学院や家族の応援も得て、ものづくりの頂点を目指しています。

能力適正に応じた充実のカリキュラム

着物は世界に誇れる日本の芸術品です。糸を取り、機にかけて、模様をほどこしたものを「縫う」という尊い技で、きもの形をつくりあげるので、日本のきものが現代に息づき、後世に継承されてゆくためにも、作り手の心と技を磨いていく誇り高い仕事です。

わが社の技能継承

(株)原和裁研究所



縫うよろこび
着るよろこび
着せるよろこび



(株)原和裁研究所 代表取締役社長 原 芳樹さん

着物は日本人の心そのもの。先人たちが作り上げ長年培った伝統と技能をいまでも受継ぐ和裁技能士。その卓越した技能向上や着物文化の振興・後継者の育成など、三代に渡り道を極めてきた(株)原和裁研究所をご紹介します。



原和裁専門学院 院長 原 タエ子さん

- 香川県認定ソーイングスクール原和裁校長
- 香川県原和裁技能士会 会長
- 技能検定和裁1級技能士
- (社)全国和裁団体連合会 認定師範着付師など

Q…その中で原和裁専門学院の独自の育成システムとは…?

原院長…戦後まもない昭和21年に私の母である原ツル子がこの成合町に原和裁専門学院を設立。県内を中心に県外からも多数の生徒が入学し、多い時は60名ほどの生徒がいましたが、現在では少子化や着物文化の衰退など、社会環境の変化により年平均20名弱の生徒が在学しています。人数が少ない生徒たちひとり一人に充実した指導教育を行っています。

Q…充実したカリキュラムの内容は…?

原院長…和裁の基礎をマスターする基本課程から上級の高度な和裁技能をマスターし、プロの技能士として独立で



Q…新しい社会状況の中で和裁技能の新たな展望と取組みは…?

原社長…着物需要の拡大を図るには、着物文化の伝統や魅力を多くの人に理解と認識をいただくことが大切だと思います。いまご家庭でも裁縫道具もな

ぎるまでの全課程の指導に、幅広い特殊技能を習得する師範課程を得て、技能検定和裁1級技能士にチャレンジし、卒業後は独立自営を目指します。独立後は仕事も斡旋するので仕事も家庭も両立した生活を保証します。また、研究課程の指導員研修より当学院の教職

